

住民主体の生活支援サービス勉強会

～令和5年8月25日・28日開催～

始めに

令和5年8月25日、28日の2日間にわたり「住民主体の生活支援サービス勉強会」が開催されました。

いま、介護保険制度などの公的なサービスだけでは対応できない高齢者の課題を解決するため、“住民主体の助け合い・支え合い”が注目されています。そこで、7月12日に行われた「生活支援体制整備事業に係る意見交換」で声が上がった「移動が困難でサロンに来られなくなった方を送迎する仕組みがあるなら協力してみたい」「無理せず自分のできることが生かせるなら助け合い活動に参加したい」という2つの意見を実現させるため、今回の勉強会では、“住民主体の助け合い・支え合い”の方法をより具体的に学びました。

1日目は「移動支援」をテーマに、「移送サービス関係法令」や「安全安心な運転と緊急対応」を学びました。2日目は「ちょっと困(ちょっとした困りごと)サポート」をテーマに、町内でちょっとした困りごとをサポートするサービスを行っている企業「山崎新聞店」さんの実践報告をお聞きしました。勉強会終了後には、参加者によって「サロンの移動支援検討部会」と「ちょっと困サポート検討部会」が立ち上げられ、今後、“住民主体の助け合い・支え合い”の実現に向けてそれぞれの部会で話し合いが進められることとなりました。

1日目 報告「高根沢町の地域ニーズ」 (第1層生活支援コーディネーター 矢口雅章)



☆7/12意見交換会、7/24第1層協議体コアメンバー会議より

- ・「サロンに特化したボランティアによる送迎」
 - ・「ちょっと困(ちょっとした困りごと)のサポート」
- この2点に意見が集約されている。

☆第9期介護保険計画策定に向けたアンケートからわかったこと

- ・要介護者は在宅生活を続けるために「移動支援」「見守り」の取り組みが必要だと考える人が多い。
- ・元気高齢者は「これから先も自宅で生活するためには移動の不安解消がポイント」「社会活動に“参加してみたい”“やってみたい”を叶える場が必要」と考える人が多い。
- ・「移動支援」「見守り」「ちょっと困サポート」を検討することは住民ニーズと合致している。

1日目 講話「移送サービス関係法令」

～助け合いお出かけサービスで高根沢町を住みやすい町に～
(とちぎ地域福祉ネット会長 小林泰進氏)



☆キーワード

- ・見えにくい貧困もある。「移動の貧困」がそれにあたる。
- ・身体と心、両方の健康が大切。
〔 身体→病院へ通院して治療する
心 →友だち付き合い、外出でリフレッシュ 〕
※移動ができないとこれが満たされない!!
- ・高根沢町の「たんたん号」は優秀なデマンド交通
→それでも取りこぼしてしまう利用者層がある。
- ・移送サービスが拡充すればするほど利用者の幸福度が上がるが、担い手は適度な回数(月2~3回程度)を超えると幸福度が下がるので注意。

1日目 講話「安全・安心な運転と緊急対応」

～生活支援活動支え合いの志～
(とちぎ地域福祉ネット幹事 千葉一正氏)

☆キーワード

- ・重大な交通事故が1件起きるまでには、29件の小事故と300件のヒヤリハット、さらに数千件の“不安全行動”が起きている。
- ※ヒヤリハット:ヒヤリとしたり、ハッとしたり、危ないことが起こったが、幸い災害には至らなかった事象
- ※不安全行動:無意識の違反行為や確認不足など
- ・「不安全行動」を「安全行動」に替えれば良い。



☆安全安心な運転技術

- ・停止線できちんと停まる。
- ・自分で決めた体感速度になるように身体を慣れさせる。
- ・車間距離は電柱1本分(約30m)。



2日目 講話「高齢者の心身の特徴と認知症の理解」 (高根沢町西地域包括支援センター長 大貫裕章氏)

☆キーワード

- ・高齢になるほど喪失体験が増える。友人、仕事、お金など多くのものを失うことで意欲が低下する。
- ・今は5人に1人が認知症。
- ・認知症には根本的な治療法はなく、現在の医療では進行を遅らせるのが精いっぱい。
- ・認知症は早期発見が大切。早ければ病気との向き合い方を専門家へ相談できて、症状を遅らせることや病気を受け入れる準備ができる。



2日目 実践報告「山崎新聞店朝日まごころサポート」 (山崎新聞店 高尾奈津子氏)



☆どんなことをしている？

- ・町の新聞販売店である山崎新聞店が、「高齢者が住み慣れた地域で、安全に安心して過ごしていけるお手伝いをしていこう!」と始めたサービス。
- ・販売店エリア限定で、65歳上の一人暮らし又は夫婦2人暮らしの方を対象にちょっとした困りごとのサポートを行う。
- ・購読者は、作業スタッフ1人の料金が30分500円。(未購読者は750円)

☆キーワード

- ・依頼内容は「草取り」が最も多いが、それより多いのは実は「移動支援」の依頼。通院や買い物など移動に関する依頼がくるが、対応できないのが悩み。
- ・「小さな困りごと」をサポートするサービスだが、「大きな困りごと」や「依頼者が自分で解決できる困りごと」の依頼が増えてしまった。「大きな困りごと」はやってくれる業者を調べて伝えたり、「自分で解決できる困りごと」は自分でできるよう見守ったりと、私たちがやるべきことを見極めてきた。
- ・会社であっても従業員全員が同じ方向を向くことは難しい。思いも熱量も人それぞれな地域住民グループではもっと大変かもしれない。
- ・依頼の多い地域は「宝積寺」。むしろ農村地区は依頼が少ない。現役で農業をやっていて元気なのかもしれないし、地域の支え合いがあるのかもしれない。
- ・サポートの後は、おしゃべりをする人が多い。おしゃべりは宝物だと考えているので、何分おしゃべりしていてもその分は無料。

2日目 グループ検討

勉強会終了後のグループ検討会ではこんな意見が出されました。

サロンの移動支援検討グループ

意見

- ・運転ボランティアならば自分も協力できる。
- ・「たんたん号」に乗れない虚弱な高齢者や障害のある方等を送迎してあげたい。
- ・「人・物・金」実現への壁は多いが“移動できる”喜びを共有できれば何とかなるのではないかな。
- ・送迎中に事故を起こす不安を軽減して、気軽に送り迎えができるようにしたい。
- ・他市町では移動支援サービスに補助を出している。高根沢町にもほしい。
- ・「たんたん号」は非常に優秀な仕組みなので、活用した移動支援も考えるべき。

次回

9月13日(水) 15:00～ 福祉センター和室にて検討会を開催

ちょっと困(ちょっとした困りごと)サポート検討グループ

意見

- ・子育て分野のファミリーサポートのように、困っている人とやってあげたい人をマッチングしてくれるシステムが必要。
- ・活動は口コミで広がっていくと良い。
- ・長く続けるためには無償ではなく有償である方が良いと思う。
- ・全く知らない相手を支援するのは不安。何度か会って慣れる場が必要だと思う。
- ・困っていることを言えない人もいるが、おしゃべりの中からポロっと出す人もいるでの雑談は大切。
- ・事務局がないと個人の負担が大きい。

次回

9月15日(金) 15:00～ 福祉センター会議室にて検討会を開催

どちらのグループも再度集まることを決めて終了いたしました。もし、それぞれのテーマに興味・関心がある方は次回の検討会にお越しください。参加大歓迎です。

